

EndNote Basic 利用マニュアル

—EndNote Basic とは?— 文献データベースの検索結果等の保存や引用文献リストを自動作成することができます。また、共同研究者等とデータの共有をすることができます。データはサーバ上に保存され、Web からどこからでもアクセス可能です。PC に専用ソフトのインストールは不要です。EndNote デスクトップ版と連携して使うことや、他の文献管理ソフト(RefWorks 等)間とのデータ移行もできます。

・**利用対象— NMS メール(@nms.ac.jp)所有の学内者が利用できます。**

機関契約用を提供しています。無料版の EndNote Basic とは異なります。


【目次】<1> 利用開始 p.1-2

○利用登録… 個人アカウントの作成(利用登録) & ログイン方法

○プラグインソフトのインストール

<2> 文献の保存… 各データベースからのインポート p.3-9

(a)PubMed (b) Scopus (c) 医中誌 Web (d) CiNii Articles (e) Google Scholar

(f)図書館所蔵検索(OPAC) (g)文献入手ナビゲートツール からの取り込み

<3> 全文・所蔵情報へのリンク p.10

<4> 文献レコード(レファレンス)への添付ファイル・添付図の設定 p.10-11

<5> 文献の整理(グループ分け) & 共有設定 p.12-13

<6> 新規レファレンス(=文献データ)の作成・重複の削除 p.13

<7> 引用文献リストの作成(「フォーマット」)保存したデータを使って自動作成 p.13-16

<8> 他の文献管理ソフトとのレコードの移動(インポート&エクスポート) p.17

<9> 利用登録の情報変更 p.17 <10> Q&A(よくあるご質問) p.18-19

<1> 利用開始 - 利用登録 & プラグインソフトのインストール

学内 LAN に接続するPCから図書館 HP へアクセスし、「EndNote Basic」をクリックします。

<利用登録&ログイン>

①アクセス 学内LANに接続するPCから図書館HPへアクセスし、トップページ上部のリンク「EndNote Basic」をクリックします。「文献管理ソフトのご利用について」画面で、「アクセス先」-EndNote Basic をクリックします。

②ログイン画面

● 利用登録(はじめて利用するとき)

ログイン画面の「アカウントの登録」をクリックすると、登録画面が表示されます。

登録後、メールで登録完了のお知らせが送信されます。

(注) 登録の E メールアドレスは、学内メール @nms.ac.jp に限ります。パスワードは、8 文字以上、アルファベット、数字、記号を入れたものにしてください。(メールを所有していない場合はICT推進センターへお申込ください。)

● 利用登録後のログイン

設定した E メールアドレス、パスワードでログインをします。学外からのアクセス方法も同様です。

サインインまたは **アカウントの登録**

Email:

パスワード:

ログイン

サインインしたままにする

③<プラグインソフトのインストール>

EndNote Basic の拡張機能です。

このソフトにより、文献データ（レファレンス）の自動取り込みや引用文献リスト作成を簡単におこなうことができます。

ログイン後の画面、「オプション」タブより、「プラグインのダウンロード」をクリックし、表示された画面より、該当ソフトをクリックし、インストールします。

※動作環境（OS, ブラウザのバージョン）を確認のうえ、インストールください。

プラグインソフトがインストールできない場合や動作がうまくいかない場合には、ソフトを利用しない方法でご利用ください。

○ CWYW(Cite While You Write)… Microsoft Word との連動機能。Word 文書作成中に、レファレンスを挿入や引用文献スタイルの変更ができます。また、Windows の Internet Explorer にて、オンラインレファレンスをライブラリに保存することもできます。

○ Firefox エクステンション

Firefox でオンラインレファレンスをライブラリに直接保存するには、EndNote ツールバーを使用します。

マイレファレンス 収集 構成 フォーマット オプション

パスワード | Email アドレス | プロファイル情報 | 言語 | **プラグインのダウンロード** | アカウント情報

プラグインのダウンロード

取り込み: [レファレンスを取り込み](#)

取り込みツールをインストールするには、**レファレンスの取り込み** ボタンをブックマークバー（お気に入りバーやブックマークツールバーと呼ばれることもあります）、右クリックして [お気に入りに追加] または [このリンクをブックマーク] を選択する必要があります。ツールを使用するには、取り込みページに移動してブックマークツールバーの**レファレンスの取り込み** ボタンをクリックし、[レファレンスの取り込み] ウィンドウを開きます。

CWYW (Cite While You Write)™

EndNote プラグインを使用すると、Word で論文を執筆している間に、自動的に引用文献を挿入してフォーマットします。また、この EndNote プラグインは、Windows の Internet Explorer にて、オンラインレファレンスをライブラリに保存することもできます。

U.S. Patent 8,082,241

インストールガイド と システム要件 を確認してください。

- Internet Explorer のプラグインを使用して Windows 版をダウンロード
- 大量のプログラムインストール用に Windows MSI ファイルをダウンロード
- Macintosh 版をダウンロード

Firefox エクステンション

Firefox でオンラインレファレンスをライブラリに直接保存するには、EndNote ツールバーを使用します。

インストールガイド と システム要件 を確認してください。

- Windows/Macintosh 版をダウンロード

<操作画面>

入門ガイド または、タブ表示を切り替えて目的作業を行います。

<タブ表示> ([a])

下記機能ごとに、タブが分かれており、これらをクリックして該当画面に切り替えることができます。

- マイレファレンス : 保存されている「レファレンス」(=文献データ)を表示させます。
- 収集 : 「レファレンス」(=文献データ)のインポート(取り込み)や手動作成、EndNoteBasic と接続して検索できるデータベースの検索
- 構成 : グループ(=フォルダ)の管理や作成、共有設定等
- フォーマット : 引用文献リストの自動作成。フォーマット(作成スタイル)の作成等。

<入門ガイド> ([b])

上記機能が1つの画面上で説明されています。各項目をクリックすると、その機能へ移動します。

画面右上の「入門ガイドを非表示」をクリックすると([c])、消えます。

<2> 文献の保存 各データベースからのインポート

データベースの検索結果からの文献データを EndNote Basic に取り込むには、大きく分けて次の3通りがあります。

EndNote Basic でのレファレンス(文献データ)数の上限は、50,000 件です。

1. 各データベースの結果画面からリンクしている EndNote Basic へ直接インポートする方法
2. 各データベースの検索結果をテキストファイルとして保存したうえで、インポートする方法
3. EndNote Basic のデータベース機能で検索し、その結果をインポートする方法

各データベースでの操作-

- (a) PubMed からのインポート

[方法 1] 検索結果をファイルに保存し、EndNoteBasic に取り込む -

① PubMed の検索 : 検索後、EndNoteBasic にインポートする各文献データのチェックボックス(□)をクリックします。([a]) *チェックしない場合には、検索結果全てが保存されるため、結果件数を絞ってください。

② 検索結果からファイルを作成 : 画面右上の「Send to」をクリックし、表示された画面「Choose Destination」で、「Citation manager」をクリックし、「Create File」をクリックします。([b])

③EndNote Basic への取り込み

[プラグソフト CWYW—(前述 P.2)—をインストール済みの場合] -

EndNote Basicのログイン画面(左図)が表示され、ログイン後、自動的に取り込まれます。

[プラグソフト CWYWをインストールしていない場合] -

#1 ファイルのダウンロードがはじまります。 デスクトップ等に保存をします。

なお、「Choose Destination」で、「File」をクリックし、format を「MEDLINE」をクリックし、「Create File」をクリックしても同様にできます。

レファレンスのインポート

EndNoteからインポートしますか?

ファイル: 選択されていません

インポートオプション:

インポート先:

#2 EndNote Basic にログインし、「収集」メニューより「レファレンスのインポート」をクリックします。

表示された画面で、次の操作を順に行います。

- 「ファイル選択」ボタンをクリックし、保存した PubMed 検索結果のファイルを選びます。
- 「インポートオプション」で「PubMed(NLM)」を選択します。
- 「インポート先」で「グループ」(データ取り込み先のフォルダ)を選択します。未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選び、名前をつけて作成します。

以上の後、「インポート」をクリックします。

④ **インポートの結果を確認** : 取り込み先のグループを指定せず、自動的にレファレンスを取り込んだ場合には、「マイレファレンス」-「未整理」に入ります。クリックすると、画面が表示され、保存文献データ(=レファレンス)が表示されます。

並べ替えで「最終更新 新しい順」にすると上から順に表示されます。

[方法2] オンライン検索の利用 : EndNote Basic の PubMed「オンライン検索」機能を利用して、データを取り込む方法 * 簡易検索のため、より複雑な検索を行う場合には、先の[方法1]で行ってください。

- ① **EndNote Basic上でPubMedを操作** : EndNote Basic にログイン後、「収集」-「オンライン検索」をクリックし、「データベースまたは図書館所蔵目録への接続を選択」で「PubMed(NLM)」を選択し、「接続」をクリックします。キーワードを入力し、PubMed の検索を実行します。
- ② **検索結果の表示** : 検索式と結果件数が表示されます。検索式をクリックすると内容を変更して、再検索ができます。検索式が確定したら「取得」をクリックします。

(*ここでのデータは一時的に表示されるものです。取り込み完了は次の④の操作になります。)

オンライン検索

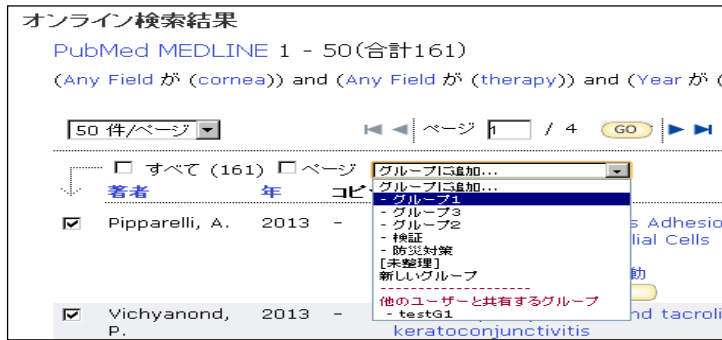
ステップ 3 / 3: PubMed MEDLINE : PubMed (NLM) に接続
(Any Field が (cornea)) and (Any Field が (therapy)) and (Year が (2013))

161 件見つかりました:

から を取得

③ 検索結果から文献データのインポート(取り込み)

検索結果の文献データが表示されます。データを確認し、インポートをする文献を選び、左側のチェックボックスをチェックします。「グループに追加」よりデータを保存するフォルダ(「グループ」)を指定します。



*グループに「追加」せずに画面を終了した場合には、データが保存されませんのでご注意ください。

(b) Scopus からのインポート

① Scopus での操作

検索後、EndNote Basic に取り込む文献データのチェックボックスをクリックし、画面上の「エクスポート」をクリックします。

表示された画面で、「RIS 形式」を、また取り込みをしたい文献情報の形式（書誌情報）を選びます。「エクスポート」をクリックします。

② EndNote Basic への取り込み

○ [プラグソフト CWYW（前述 P.2）をインストール済みの場合]

ダウンロードしたファイルをクリックすると、EndNote Basic のログイン画面が表示され、ログイン後データが取り込まれます。

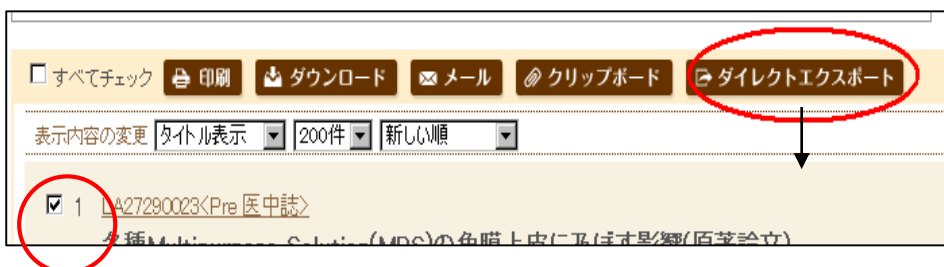
○ [プラグソフト CWYW をインストールしていない場合]

EndNote Basic にログイン後、タブメニュー「収集」-「レファレンスのインポート」をクリックして「ファイル」-「参照」をクリックし、ダウンロードしたファイルを選び、「インポートオプション」-「Scopus」,「インポート先」-「グループ」（データ取り込み先のフォルダ）を選択し、未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選んで作成し、名前を付けます。最後に「インポート」をクリックします。

(c) 医中誌 Web からのインポート

① 医中誌 Web での操作 - 検索結果を取り込み指定

検索後、EndNote Basic へ取り込む文献データを選び、左側のボックスにチェックをし、「ダイレクトエクスポート」をクリックします。展開された画面中の EndNote Basic をクリックします。





② EndNote Basic にログイン - ログインが自動表示されます。

③ データの自動インポート(取り込み) - ログイン後、自動的にデータの取込が行われます。

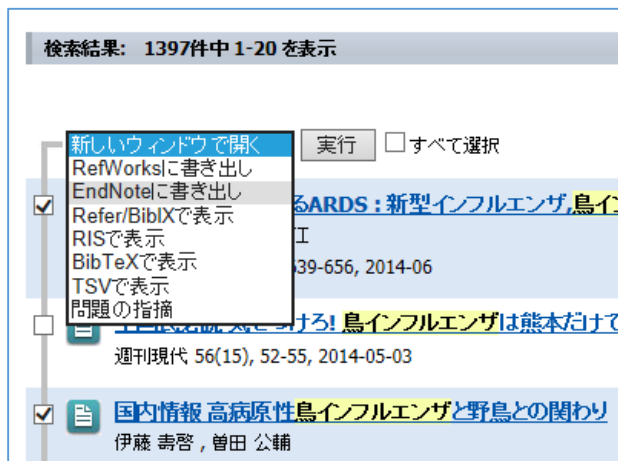
-(d) CiNii Articles からのインポート

① CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>) にアクセスし、検索結果から取り込みをするレコードについてチェックを入れます。

② データ取り込み設定

○[プラグソフト CWYW - (前述 P.2) - をインストール済みの場合]

画面上の「新しいウィンドウで開く」のプルダウンメニューから「EndNote に書き出し」を選び、「実行」をクリックします。 EndNote Basic のログイン画面が表示され、ログイン後、データが取り込まれます。

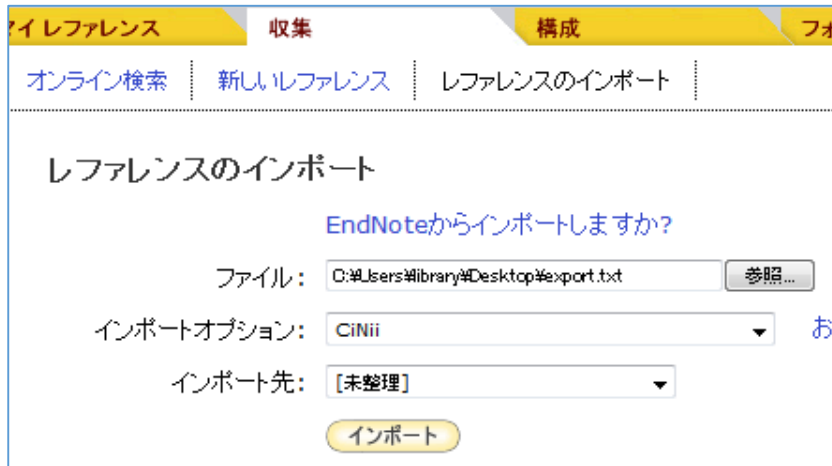


○[プラグソフト CWYW をインストールしていない場合]

#1) 画面上の「新しいウィンドウで開く」から「Refer/BibIX で表示」を選び、「実行」をクリックします。
名前をつけて保存をします。なお、ファイルの種類はテキストファイル(.txt)です。

#2) EndNote Basic にログイン後、タブメニュー「収集」- 「レファレンスのインポート」をクリックして「ファイル」- 「参照」をクリックして、さきほど保存したファイルを選び、さらに「インポートオプション」- 「CiNii」, 「インポート先」- 「グループ」(データ取り込み先のフォルダ)を選択し、未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選んで作成し、名前を付けます。

最後に「インポート」をクリックします。データが取り込まれます。



(e) Google Scholar からのインポート

<注>GoogleScholar はフリーサービスですが、この機能は、学内LAN専用接続したPCでのみ表示されます。



① Google Scholar での操作 GoogleScholar (http://scholar.google.co.jp/) にアクセスします。

検索結果画面上の「設定」をクリックします。「文献情報マネージャー」-「EndNote」を選択し、設定を保存します。

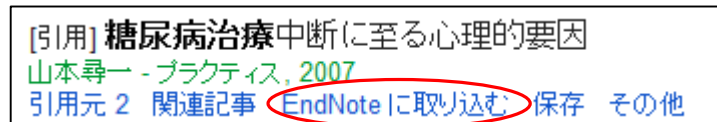
② 検索結果からの取り込み

Google Scholar を検索後、取り込む文献データについて、リンク表示「EndNote に取り込む」をクリ

ックします。

データファイルのダウンロードが始まります。

デスクトップ等に保存をします。(ファイルの種類は「.enw ドキュメント」です。)



③ EndNote Basic での操作

タブメニュー「収集」-「レファレンスのインポート」をクリックして「ファイル」-「参照」をクリックして、さきほど保存したファイルを選び、「インポートオプション」で「EndNote Import」を選択、「インポート先」で「グループ」(データ取り込み先のフォルダ)を選択し、未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選んで作成し、名前を付けます。最後に「インポート」をクリックします。データが取り込まれます。

-(f) 図書館所蔵検索(OPAC)からのインポート


プラグソフト CWYW- (前述 P.2) —をあらかじめインストールします。

日本医科大学図書館 OPAC (http://libopac.nms.ac.jp/opac/opac_search/?lang=0 図書館トップページにリンク)にアクセスし、検索結果から取り込みをする

EndNoteBasic 出力

ファイル(拡張子.ris)で保存後、EndNote Basicにインポートをしてください。*ダイレクトエクスポートのためには、予めプラグインソフトCWYWのインストールが必要です。(EndNote Basicにログインして行ってください)

**検索結果をEndNoteBasicへエクスポートします。
対象は2件です。**



レコードについてチェックを入れ、上部の「EndNote Basic 出力」をクリックします。

左記の画面が表示され、「EXPORT」

をクリックすると、EndNoteBasic のログイン画面が表示され、ログイン後、データが取り込まれます。

※CWYW をインストールしてもうまくいかないときは、検索結果のファイル(.ris)をいったん保存します。

そのうえで、EndNote Basic にログインし、タブメニュー「収集」-「レファレンスのインポート」をクリックして「ファイル」-「参照」をクリックして、さきほど保存したファイルを選び、「インポートオプション」で「Refman RIS」を選択、「インポート先」で「グループ」(データ取り込み先のフォルダ)を選択し、未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選んで作成し、名前を付けます。最後に「インポート」をクリックします。データが取り込まれます。

-(g) 文献入手ナビゲートツール からの取り込み(PubMed 等)

PubMed や医中誌 Web、電子ジャーナルの文献にリンクされている



より、文献情報を取り込むことができます。

プラグソフト CWYW- (前述 P.2) —をあらかじめインストールします。

①検索結果の文献にリンクの



をクリックします。



検索結果:

論文:	Early intervention after perinatal stroke: opportunities and challenges				
著者:	Basu, Anna P				
ジャーナル:	Developmental medicine and child neurology				
ISSN:	0012-1622	日付:	2014/06		
巻:	56	号:	6	ページ:	516 - 521
PMID:	24528276	DOI:	10.1111/dmcn.12407		

引用: [Eメール](#) または [エクスポート/保存](#)

引用のエクスポート

直接アクセス: RefWorks

EndNote、ProCite、またはReference Managerに直接

RIS形式で

プレーンテキストとして

HTMLとして

CSVとして

キャンセル

②開いた画面で「エクスポート／保存」をクリックし、「EndNote、…に直接」を選び、「エクスポート」をクリックします。EndNote Basic のログイン画面が表示され、ログイン後、自動的にデータが取り込まれます。

※CWYWをインストールしないときやインストールをしてもうまくいかないときは、「RIS形式で」を選んで、いったんデータファイルを保存します。そのうえで、EndNote Basic にログインし、タブメニュー「収集」-「レファレンスのインポート」をクリックして「ファイル」-「参照」

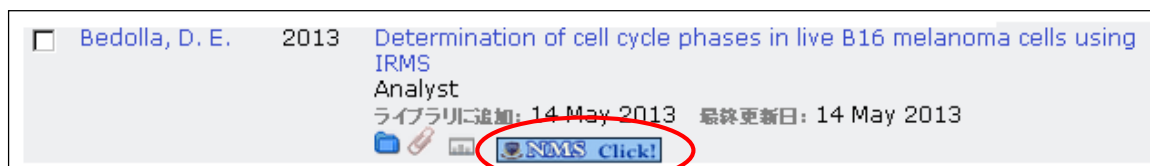
をクリックします。

さきほど保存したファイルを選び、「インポートオプション」で「Refman RIS」を選択、「インポート先」で「グループ」(データ取り込み先のフォルダ)を選択し、未作成の場合は、「未整理」もしくは、「新しいグループ」を選んで作成し、名前を付けます。

最後に「インポート」をクリックします。データが取り込まれます。

<3> 全文・所蔵情報へのリンク

文献データにリンクしている「NMS Click!」アイコンをクリックすると日本医科大学図書館で所蔵の雑誌情報(冊子体)および電子ジャーナル全文へのリンクが表示されます。(※NMS アイコンは、学内 LAN にアクセスしている場合にのみ表示されます。全文は学内で契約しているもの及び Free アクセスのもののみご覧になれます。)



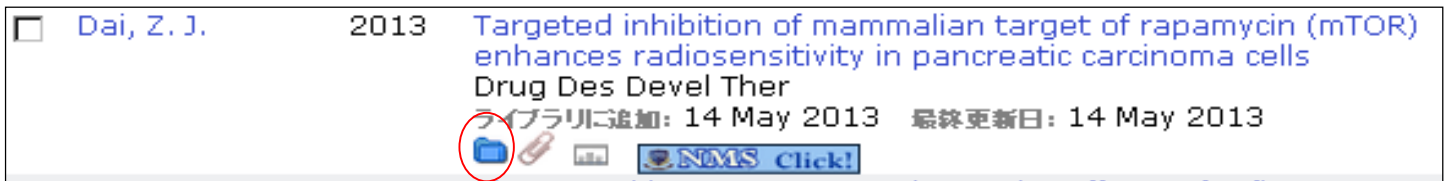
<3> 文献レコード(レファレンス)への添付ファイル・添付図の設定

各文献レコードについて、ファイルや図を添付することができます。

[添付ファイル]

①ファイルの添付 レファレンスのリストを表示している場合、各文献レコードの「添付ファイル」ボタン  をクリッ

くし、「添付ファイル」ウィンドウを開きます。「ファイルの添付」をクリックします。



「ファイルのアップロード」ウィンドウが表示されます。同時に最大 5 ファイルまでアップロードできます。「参照」をクリックしてアップロードするファイルを選択します。ファイルの選択が完了したら、「アップロード」をクリックします。

②添付ファイルの管理

[構成] タブで [添付の管理] を選択します。添付ファイルと添付図のリストが表示されます。

[添付ファイル] ボタンをクリックして [添付ファイル] ウィンドウを開きます。レファレンスに添付されているファイルのリストが表示されます。

いずれかのウィンドウで添付ファイルを削除できます。

<注> EndNote Desktop から転送したレファレンスから添付ファイルを削除する場合、EndNote Desktop から添付を削除する必要があります。添付を削除しないと、次回に転送を実行したときに添付が再度表示されます。

<注> ・添付ファイルの制限

レファレンスに添付できるファイルは、アカウント全体として2GB までです。

EndNote X5 以降を購読している場合、任意の数のファイルをレファレンスに添付できます。

EndNote Desktop と EndNote Basic の間で添付ファイルを転送できます。

・添付ファイルのタイプ EndNote Basic は以下の形式の添付ファイルをサポートしています。


オーディオファイル (WAV、MP3)

Microsoft Access ファイル、Microsoft Excel ファイル、Microsoft Power Point ファイル

Microsoft Project ファイル、Microsoft Visio ファイル、Microsoft Word ファイル

マルチメディアファイル (MOV、QuickTime)、製図ファイル、テキストファイル (TXT、RTF、HTML)

PDF ファイル

[添付図] ①図のレファレンスへの添付 レファレンスのリストを表示している場合、「添付図」ボタン  をクリックして「添付図」ウィンドウを表示します。「図の添付」をクリックします。「レファレンスを表示」ウィンドウでフルレファレンスを表示している場合、「図の添付」をクリックします。

「添付図のアップロード」ウィンドウで、「参照」をクリックしてアップロードする図を含むファイルを選択します。ファイルの選択が完了したら、「アップロード」をクリックします。

②添付図の管理 「構成」タブで「添付の管理」を選択します。添付ファイルと添付図のリストが表示されます。

「添付図」ボタンをクリックして「添付図」ウィンドウを開きます。レファレンスに添付されている図のファイル名が表示されます。

いずれかのウィンドウから添付図を削除できます。ノート: EndNote X5 から転送したレファレンスから添付図を削除

する場合、EndNote X5 から添付を削除する必要があります。添付を削除しないと、次回に転送を実行したときに添付が再度表示されます。

<注>・添付図の制限

レファレンスに添付する図のサイズに制限はありません。ただし、1 つのアカウントで利用できる(レファレンスと添付の)合計サイズは 5GB です。

EndNote X5 以降と EndNote Basic の間で添付ファイルを転送できます。

EndNote X5 以降を購読している場合、1 つの図のみレファレンスに添付できます。

・添付ファイルのタイプ EndNote Basic は以下のファイル形式の添付図をサポートしています。

Windows ビットマップ - BMP

グラフィックス・インターチェンジ・フォーマット - GIF、JPEG ファイル・インターチェンジ・フォーマット - JPEG

ポータブル・ネットワーク・グラフィックス - PNG、タグ・イメージ・ファイル・フォーマット - TIF

※ なお図書館では、EndNote Basic のみの学内用に契約しているため、デスクトップ版はサポートできません。詳細について不明な点は代理店((日本代理店 ユサコ)へお尋ね下さい)

<4> 文献の整理(グループ分け) & 共有設定

*文献を保存するフォルダをここでは「グループ」と称しています。

①未整理フォルダからの移動

保存したレコードは、特に指定しない場合には[マイレファレンス] タブの[未整理] に蓄積されます。

「未整理」から新しいグループ(=フォルダ)へ移動させるには、タブ「マイレファレンス」-「未整理」をクリックし、各文献のチェックボックスをチェックし、画面上の「新しいグループ」を選び、名前を付けて「OK」します。

②グループの管理 総合的にグループの管理を行う機能として、タブ「構成」-「マイグループの管理」で行うことができます。ここで、グループ新規作成・削除・名前の変更・共有設定ができます。

マイグループ↑	レファレンスの数	共有			
health information	190	<input checked="" type="checkbox"/>	共有の管理	名前の変更	削除
グループ1	373	<input type="checkbox"/>	共有の管理	名前の変更	削除
グループ2	5	<input type="checkbox"/>	共有の管理	名前の変更	削除
グループ3	2	<input type="checkbox"/>	共有の管理	名前の変更	削除

新規グループ

* 共有設定 グループに保存した文献について、EndNoteBasic に利用登録をしている他の利用者と共有するこ

とができます。各グループについて、共有にチェックをし、共有する利用者のメールアドレスを追加し、「読み取り専用」か「読み書き」可能に設定ができます。

なお、タブ「構成」-「その他のグループ」は、EndNote Basic を利用している他の利用者が作成しているグループで共有しているものが表示されます。

<5> 新規レファレンス(=文献データ)の作成 ・ 重複の削除

新規に1件ずつレファレンスを作成するには、タブ「収集」-「新しいレファレンス」をクリックします。

重複のデータを削除するには、タブ「構成」-「重複の検索」をクリックし、表示させたうえで、削除します。

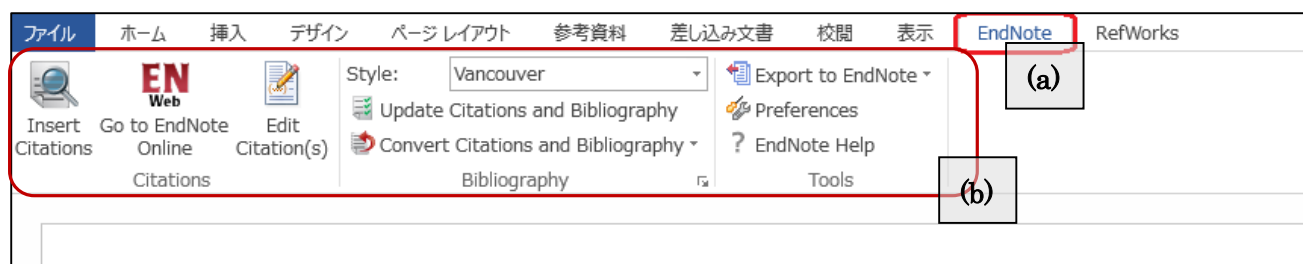
<6> 引用文献リストの作成(「フォーマット」)

EndNote Basic に保存したレファレンス(=文献データ)を使って、引用文献リストの作成ができます。

【方法1】 [プラグソフト CWYW - (前述 P.2) - をインストール済みの場合]

Microsoft Office Word で論文を作成している際に、CWYW ツールバーを操作して、EndNote Basic に保存した文献データを Word 文書の必要な箇所に埋め込んでいきます。

- Word2013 の操作方法 - ※Word のバージョンによってツールバーの表示や操作方法は、異なります。



① Word 文書を開き、EndNote タブ (a) をクリックします。

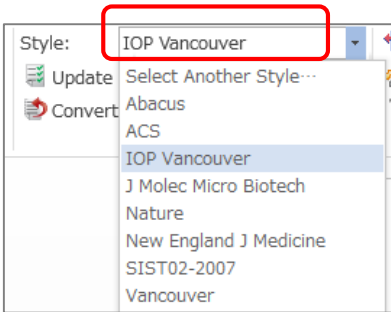
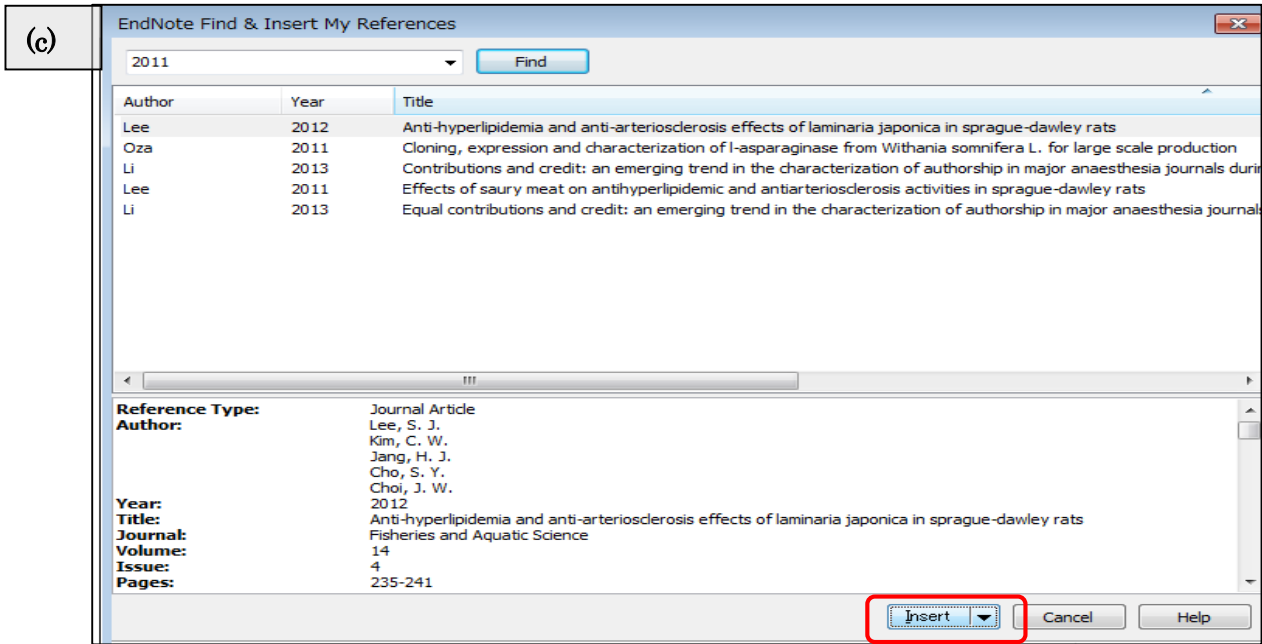
EndNoteBasic へのログイン画面が表示され、ログイン後、CWYW ツールバー (b) が表示されます。

②引用文献を入れる箇所にカーソルを合わせ、ツールバーの「Insert Citations」ボタンをクリックします。

表示された画面 (c) で、検索語を入力し、EndNoteBasic 中に保存したレファレンス (=文献データ) を検索します。ヒットした中からレファレンスを選び、最後に「Insert」ボタンをクリックします。

(複数選ぶ際には、Ctrl キーを押しながら、該当のレファレンスをクリックします。)

カーソルの位置に、レファレンスが表示されます。



③ 書誌スタイルを変更するには、ツールバーの中から「Style」から選びます。プルダウンメニューからスタイルを選択します。

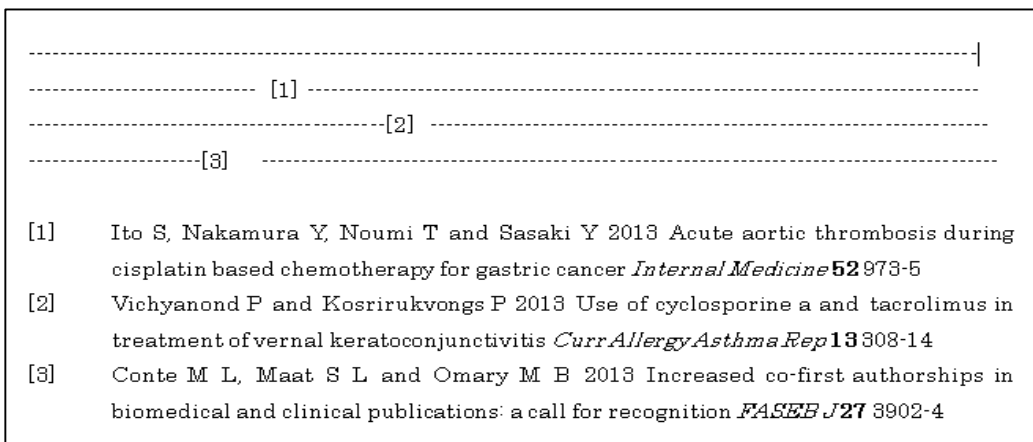
なお、この中に該当がなかった場合には、

「Go to EndNote Online Citation」  をクリックし、EndNote Basic サイトにアクセスし、

ログイン後、フォーマットタブを開き、「引用文献フォーマット」で、書誌スタイルの「お気に入りを選択」で、マイリストにフォーマットを追加します。

なお、追加されたフォーマットの反映は、Word を再起動する必要があります。

下記のように Word 文書の挿入された箇所には文献の番号が付き、最後にその番号順にリストが表示されます。



【方法2】（プラグインソフト CWYW を使用しない場合）

Microsoft Office Word と連携させて作成

① **Microsoft Word での準備作業**— Microsoft Word 論文原稿を用意します。

文献の引用箇所を決めていきます。

引用箇所に {著者の苗字,出版年} を入力します。（記述例）{Lee,2011}

同じ著者で同じ年に複数文献がある場合には、次のようにして論文の区別をつけます。

{著者の苗字,論文タイトル}（記述例）{Lee, Anti-hyperlipidemia }

同じ箇所に複数文献を引用する際には、文献情報の間を半角セミコロン(;)で区切ります。

（記述例）{Kobayashi,2011; {Lee, Anti-hyperlipidemia

記述後、RTF(リッチテキスト)形式で保存します。

② **EndNote Basic での作業**— ログイン後、タブ「フォーマット」-「引用文献のフォーマット」をクリックします。

③ 「ファイル」の横「参照」から、さきほど保存した Word ファイルを選びます。

「書誌スタイル」で投稿スタイルに合わせたものを選び、「フォーマット」をクリックします。

引用文献のフォーマット

リッチテキスト形式 (.rtf) の場合 ([サンプル論文を表示](#)):

ファイル:

書誌スタイル: [お気に入りを選択](#)

一致しなかった引用を無視

[ユーザー設定を表示](#)

自動変換されて、下記のように Word 文書の挿入された箇所には文献の番号が付き、最後にその番号順に文献リストが表示されます。

----- [1].

----- [2]-----[3]

[1] Lee S J, Ha W H, Choi H J, Cho S Y and Choi J W 2011 Effects of saury meat on antihyperlipidemic and antiarteriosclerosis activities in sprague-dawley rats *Journal of the Korean Society of Food Science and Nutrition* **40** 531-7

[2] Pahuja S, Puranik C, Jelliti B, Khairallah M and Sangwan V S 2013 Parasitic Infections of the External Eye *Ocul Immunol Inflamm*

[3] Lee S J, Kim C W, Jang H J, Cho S Y and Choi J W 2012 Anti-hyperlipidemia and anti-arteriosclerosis effects of laminaria japonica in sprague-dawley rats *Fisheries and Aquatic Science* **14** 235-41

なお、「ユーザー設定を表示」をクリックさせて画面では、区切り文字やその他の設定をカスタムできます。

○参照できなかった文献の修正

Word ファイルを開き、参照できなかった文献の箇所を確認し、著者の姓や年をマイ レファレンスにあるレファレンスと一致するように修正します。

○曖昧な引用の修正

Word ファイルを開き、曖昧な引用の箇所を確認し、該当の文献ごとに、年の後ろに、タイトルなどの他のフィールドの情報を追加します(例: {Kobayashi, 2010, Searching for Answers })。

【方法 3】(プラグインソフト CWYW を使用しない場合)

EndNote Basic のグループ(フォルダ)内の文献データを対象に作成し、その後、原稿に貼り付ける方法です。

あらかじめリストする文献を特定のグループ(フォルダ)にまとめておく必要があります。

①タブ「フォーマット」-「文献リストの作成」をクリックします。

②「レファレンス」-リスト作成対象のグループを選び、

「書誌スタイル」より投稿先に該当のフォーマットを選び、該当がない場合はさらに「お気に入りを選択」から選びます。

「ファイル形式」で作成するファイルの形式を選びます。

[プレビュー&印刷]をクリックして内容を確認し、印刷するか「保存」(ファイルに保存)をクリックします。

作成したリストをコピーし、原稿に貼り付けます。

なお、「書誌スタイル」は、投稿先をご確認ください。

一般的に使用される書誌スタイルは下記のようになっていますが、詳細につきましては各投稿先の規程をご確認ください。

- 医学— JAMA、NLM、Vancouver
- 生物科学— CBE
- 化学— ACS

＜6＞ 他の文献管理ソフトとのレコードの移動(インポート&エクスポート)

他の種類の文献管理ソフトから文献レコードを取り込んだり、あるいは移行させたりすることができます。

下記は RefWorks の例です。他の文献管理ソフトについては EndNote Basic にリンクされている「ヘルプ」をご覧ください。

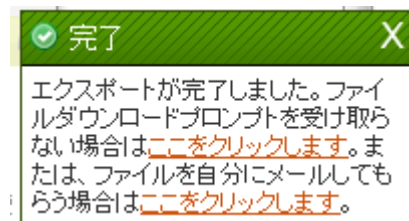
(A) インポート

＜RefWorks から EndNote Basic への移行＞の場合

① RefWorks での操作

移行対象のレコードまたは、フォルダを選択し、「レコード」-「エクスポート」をクリックし、

「フォーマット」で「Bibliographic Software(EndNote、..)」を選択し、「レコードをエクスポート」をクリックする。



画面の右下に表示される「エクスポートが完了しました」の枠(左図)より、「ここをクリックします」をクリックし、ファイルに名前をつけて、デスクトップ等に保存します。もしくは、メールで自分宛にファイルを送り、そのファイルを保存します。

② EndNote Basic での操作 「収集」-「レファレンスのインポート」をクリックし、「ファイル」-「参照」で①で保存したファイルを選び、「インポートオプション」で「RefMan RIS」を選び、「インポート先」で、グループを選択し、「インポート」をクリックする。

(B) エクスポート(データの取り出し) 他の文献管理ソフトへの移行時やエクセルファイルへの切り出しタブ「フォーマット」-「エクスポート」を選択します。

＜EndNote Basic から RefWorks への移行＞の場合

① EndNote Basic での操作

「フォーマット」タブ-「エクスポート」をクリックします。

表示された画面で、

- ・「レファレンス」—プルダウンメニューで該当のグループあるいは、各データを選択します。
- ・「スタイル」—プルダウンメニューでデータの形を選びます。

「RefMan (RIS) Export」を選び、ファイルを保存します。

②RefWorks での操作

- ログイン後、「レコード」-「インポート」メニューをクリックします。
- ・「インポートフィルター／データソース」でプルダウンメニューから「RIS Format」を選択
- ・「データベース」で「RIS Format UTF-8」を選択
- ・「テキストファイルを選択」で①で保存したファイルを参照で選択、
- ・「インポート先フォルダ」でデータの保存先を指定し、「インポート」をクリックする。

<7> 利用登録の情報変更

登録後の情報変更(パスワード等)を行う場合は、タブ「オプション」画面で行います。

<8> Q&A(よくあるご質問)

Q1 誰でも利用できるのか？ 日医大から移籍した場合にも利用できるのか？

→ 学内用メール(@nms.ac.jp)所有の学内者が利用できます。

所有していない場合には、発行を依頼してください。また、退職などで NMS メールを利用できなくなった場合には使用できなくなるため、文献レコードをエクスポートし、他の文献管理ソフト、あるいはエクセルファイル等として保存してください。なお、NMSメールを所有している卒業生は退職後もご利用になれます。


Q2 データはどこへ保存されるのか。またレファレンスは何件まで、どれぐらいの期間保存できるのか？

→ オンラインにより提供元のサーバへ、50,000 件まで保存できます。

利用登録後、学外からアクセスができますが、学内LANでの最終ログインから 1 年経つと自動的に無料版の EndNote Basic(機関対象者用と無料版との違いについては→ 後述のQ5 をご覧ください)になります。

再開には学内LAN で再度アクセスをする必要があります(VPN経由で学内LANへ入る方法でもできます)。

Q3 各文献レコードに全文をリンクさせることはできるのか？

→ 「マイレファレンス」に保存した各文献レコード(レファレンス)の  をクリックすると、開いた画面に「論文」「fulltext」がある場合には、そのリンクから電子ジャーナルの全文が見られます。ただし、契約電子ジャーナルの場合には、学内LANからのアクセスのみ表示できます。また、ファイルをダウンロード後に、添付させることもできます。2G まで保存が可能です。ただし、電子ジャーナルには提供元との契約により取り決めで利用制限がありますので、他者への転送等はできませんので、リスト共有時の取り扱いの際にはご注意ください。

Q4 日本語文献で文献リストを作成したところ、著者の姓が表示されない(例「日医 太郎」→「太郎」)。

どのように対応したらよいか。

→ 基本が英文対応のため、このような表示のときには「太郎」が姓として扱われます。書誌スタイル(文献リストフォーマット)は EndNote Basic ではカスタマイズができないため、文献データの方を直します。

「日医 太郎」の場合は、「日医太郎」と姓名の間をつめるか、「日医(スペース)太郎」と、姓名の間を詰めたあとにスペースを入力します。これで姓名が一連として文字がつながるため、エラーが起きません。

Q5 EndNote Basic の学内用(機関向け)と無料版と異なるところはどこか。

→ 機関向けの EndNote Basic は、投稿雑誌の書誌スタイルの数が約 3300 種ありますが、無料版は 21 誌に限られています。1 年以上学内LANからアクセスをしない場合には、自動的に無料版に変わります。

Q6 投稿雑誌に該当の書誌スタイルが見つからない。どうしたらよいか。

→ 書誌スタイルは図書館にお知らせをいただければ、追加登録をすることができる場合がありますのでご相談ください。ただし、すべての雑誌に対応してはいません。なお、EndNote デスクトップ版、RefWorks では、書誌スタイルを編集、新規作成することができます。

その他の操作については EndNote Basic のヘルプ及び下記をご参考ください。

<引用・参考>

1. <http://www.myendnoteweb.com/help/ja/ENW/help.htm> 「Endnote Basic ヘルプ」(トムソンロイター)
2. http://ip-science.thomsonreuters.jp/media/support/enw/enw_grc_jp.pdf EndNote オンライン クイックレファレンスノート(トムソンロイター)
3. http://www.usaco.co.jp/products/isi_rs/endnote.html EndNote ユサコ

※ なお図書館では、EndNote Basic のみ学内用に契約しているため、デスクトップ版はサポートできません。詳細について不明な点は代理店((日本代理店 ユサコ)、またはトムソンロイターへお尋ねください。

4. 讃岐美智義. デジタル文献整理術 : 最新 EndNote 活用ガイド 第 6 版 克誠堂出版, 2014 (中央図書館で所蔵しています)